

進路だより

江別市立中央中学校
No.36 2022.9.16
3学年進路係

前期期末テスト&学力テスト総合A終了！！

～学力テストBまで意外と時間がない～

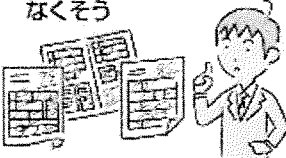
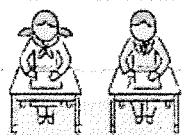



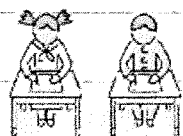



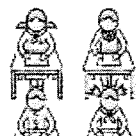

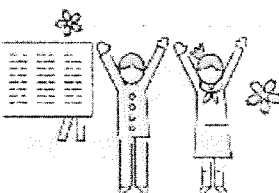
先週の前期期末テスト、一昨日の学力テストAを無事終わりました。お疲れさまでした。

今回の学力テストAでは、これまでの定期テストと異なり範囲が広いので、全部復習し終わらずにテストを迎えた人も多かったようです。(残念ながら、学力テストへの取り組みをしていない…という人もいたようです)

今回の結果は、通知表の成績に影響はしませんが、現時点でみなさんがどれくらいの実力であるかをはかるものです。定期テストはできただけで、今回は…という人は、1, 2年の復習が十分ではないと考えられます。公立高校入試まであと半年です。今まで以上に、“いつまでに、何をやるべきか”を一人ひとりが考えて学習を進めていきましょう。

※下の記事は、北海道新聞9/13のもので、参考にしてください。

高校入試までのスケジュール

基礎固め テストを活用し、苦手をなくそう 	9月	学力テスト総合A	
	10月	学力テスト総合B	
	11月	学力テスト総合C 三者面談(～12月)	
挑 戦 過去問題、予想問題に挑戦、実戦感覚を磨く 	12月	終 業 式	
	1月	始 業 式	
		学年末テスト 公立高の出願受け付け(下旬) 私立高出願受け付け(中旬～2月上旬)	
反復練習 本番に向けて「できていたこと」をもう一度、復習 	2月	私立高の一般入試A日程(14, 15日)	
		私立高の一般入試B日程(17, 18日)	
	3月	公立高の一般入試(2日) 公立高の合格発表(17日)	

1、2年時の苦手 早めに克服

公立高一般入試まで半年

模試で現在地確認／なぜ？ 問う習慣を

道内公立高校の一般入試まで半年を切った。今年の受験生は、中学3年間を新型コロナウイルス感染症拡大で過ごし、特に1、2年時は休校などで授業が変則的だった。入試では1、2年時に習った内容も出題されるため、早めに苦手を把握し、克服しておくことが重要だ。札幌市内を中心に全道展開する学習塾「ニコニコ進学スクール」(札幌)清田教室の橋本大樹先生(33)に、学習のポイントを聞いた。(久保耕平)

基礎問題でミスなく得点

橋本先生によると、今年の中3は例年に比べて1、2年時の苦手を引きずっている生徒が多いという。休校による遅れをカバーするため、学校の授業スピードが速まったためと分析。特に数学と英語で顕著とい、「早いうちに模試を受けて自分の現在地を知り、苦手を把握しよう」とアドバイスする。

「道内公立高入試は昨年度から、出題範囲や方式が大きく変わった。橋本先生は傾向について『これまでの暗記重視の問題から、思考力を重視する問題に変わっている。『なぜ?』『どうして?』と考える習慣がついていないと、問題が解けない』と指摘する。

「では何から始めればいいのか。橋本先生は『基礎的な問題でミスなく点を取り切ることが合格への道』という。21年春の入試まであった『学校裁量問題』が昨年度からなくなったため、全体の3割ほどが上位校向けの難しい問題に。難しい問題の正答率は低く、差が付にくいので簡単な問題でのミスが命取りになるといふ。これから半年間で、基礎的な問題で確実に点を取るため、橋本先生は三つの期

勉強は時間よりも内容

部活動に一生懸命だった生徒など、夏休みから本格的に受験勉強を始めた人も少なくないだろう。勉強方法に悩んでいる人もいるかもしれない。橋本先生は「勉強量イコール時間ではありません」ときっぱり言う。

「急な予定などで、勉強時間の目標はクリアできないことが多い。『勉強内容に重きを置いてほしい。』『できるようにすることリスト』をつくって、1週間、1カ月単位で消化すると良いでしょう。地道に続けること

間に区切った学習を提案する。まず9〜11月は基礎を固めて、月に1回の「学力テスト総合ABC」などを活用し、3年間の苦手をチェックする。間違えた内容は教科書の太字や赤線を見直して、穴埋めするといふそう。

12、1月は予想問題や過去問題に挑戦する期間。問題を解いて、実戦感覚を養うことを勧める。直前の3月は徹底的に復習を繰り返す。「今までできていたこと」を本番でもできるようにしてほしいという。新しい参考書に手を出すのは禁物だ。

「当日までに苦手をなくしていけばいい」
もう一つ、新しい入試傾向への対策も提案する。「日ごろから問題をよく読む習慣をつけてほしい。出題者の意図をつかむ能力は一朝一夕では身につけません。今から心がければ、本番も慌てず対応できると思います」

■家庭でどう支える

道内の多くの中学生と保護者にとっては高校入試が初めての受験だ。家庭ではどのようにわが子を支えたいか、橋本先生に聞いた。

1「家庭は普段通りに」

受験生の子どもがきちんと勉強しているか、保護者は気になるでしょう。でも家庭は子どもにとって安らぎの場であってほしい。保護者はできるだけ、いつも通りにしてあげてください。誕生日に外食に行くといった毎年の行事は開催した方が、リラックスにもなって良いと思います。

2「親が決め付けないで」

模試でDやEなど厳しい判定が出ても、本人が志望校を変えるまでは応援してあげてほしい。「無理しなくてもいいんじゃない」と言いたくなる気持ちもわかりますが、ぐっとこらえて直前まで成長を信じましょう。

3「栄養バランス大切に」

受験期は心身共に体調を崩しやすいです。糖質や脂質を取り過ぎないように、栄養バランスを意識した食事を心がけてほしいです。脳の働きもよくなります。